
食肉科研/行政情報等発信サービス

No.185 2019/8/1

1 今日の商品関連課題に対する欧州の消費者の意識レベルの最新の調査結果を発表

国立医薬品食品衛生研究所安全情報部の食品安全情報（微生物）No.15/2019（2019.07.24）に標記調査結果が掲載されている。その主な内容は次のとおり。

欧州食品安全機関（EFSA）は、欧州連合（EU）域内での住民意識調査として行われるユーロバロメーター（Eurobarometer）を新たに実施し、その結果を初の世界食品安全デー（2019年6月7日）に発表した。

- 欧州の消費者が食品を購入する際に最も重要と考える要因は、原産地（53%）、価格（51%）、安全性（50%）および味（49%）の順であった。
- EU加盟20数カ国において最も頻繁に挙げられた懸念事項は、食肉中に残留する抗生物質・ホルモン剤・ステロイド剤（44%）、食品中の残留農薬（39%）、魚・肉・乳製品中の環境汚染物質（37%）および食品・飲料に使用される着色剤・保存料・香料などの添加物（36%）であった。
- 食品関連リスクの情報源として信頼度が最も高かったのは、科学者（82%）および消費者団体（79%）で、次いで農家（69%）、国の機関（60%）、EUの機関（58%）、NGO（56%）およびジャーナリスト（50%）の順であった。消費者の信頼度が低かったのは、スーパーマーケット／レストラン（43%）、食品業界（36%）および有名人／ブロガー／インフルエンサー（19%）であった。

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2019/foodinfo201915m.pdf>